

会 議 録

会議の名称及び会議の回	令和4年度 第1回飯田市スポーツ推進審議会
開催日時	令和5年1月27日(金) 午前10時00分～11時45分
開催場所	飯田市役所3階 A301-302 会議室
出席委員氏名	江取光雄委員、羽生功樹委員、大林朗子委員、服部委員、野竹国雄委員、井坪晃俊委員、伊藤栄隆委員、三石義弘委員、牧原雅委員
欠席委員氏名	名取津義生委員、森本美保子委員
傍聴者	なし
出席事務局職員氏名	熊谷教育長、松下教育参与、今井学校教育専門幹 伊藤生涯学習・スポーツ課長、 スポーツ振興係 氏原スポーツ係長、吉川スポーツ振興専門主査、岩崎主事、北村主事、松原主事見習
会議の概要	以下のとおり

1 開会 (進行：生涯学習・スポーツ課 伊藤課長)

只今より令和4年度第1回飯田市スポーツ推進審議会を開催いたします。名取委員と森本委員が欠席です。この会は、条例に基づき設置された会議であります。本日委員の過半数の出席がありますので、この会は成立いたしますことをご報告いたします。それでは、教育長よりごあいさつ申し上げます。

2 あいさつ

(教育長)

本日は雪の降る寒い中ありがとうございます。本来であればもう少し早くに実施しなければならないところ、このような時期になり申し訳ございません。その理由の1つは、部活動の地域移行の国の動向等を確認してからということもあってこの時期になりました。

スポーツと申しますと、昨年はワールドカップが盛り上がりました。また、長野県出身選手のプロ野球での活躍や、駅伝での長野県チームの活躍、下伊那チームの3位入賞など様々な分野でスポーツが我々に元気を与えてくれています。

一方で、部活動については、12月にガイドラインが示されて、子どもたちのスポーツ環境が大きく変わろうとしているそんな時期に来ております。その中で1番大事にしたいことは、子どもたちにとってより良いスポーツ環境を整えることでもあります。文科省が行っている体力テストでは、なかなか飯田市の女子の記録が伸びないとか、子どもたちのスポーツ離れなどの課題もたくさんあります。そんな中で、どのような取組をすれば子どもたちの力が伸びていくか、また市民の皆さんが楽しんでスポーツができるのかを考えていくことが大切です。

また、コロナ禍でお互いの接触が避けられるようなこともありスポーツ等の活動が制限されていましたが、今年度の4月からはやまびこマーチや登山マラソンなど様々なイベントについても皆様のご協力をいただきながら、なんとか開催ができております。

本日は、体力の向上やこれまでの取り組みを含めた子どもたちのスポーツ環境に向けた飯田市の取り組みについてご意見をいただければと思います。

(会長)

新聞等でご覧になって皆様ご存知かとは思いますが、地域移行について、国の方針等が少し変わってまいりました。そんな中で、飯田市で今まで積み上げてきたものをもとにして、さらに良いものをつくることで、遅い時期にはなりましたが本会の開催となりました。

私自身、学校教育現場で長年やってきた身として、今となつては、本当に反省させられる点が多々ございます。部活動というのは、ほぼ毎日1時間以上実施しており、これは、国社数理英の授業時間50分週5回より多いものです。そのようなたくさんの時間を部活動に費やし、そこにはどのような学びがあるのかということが、私自身まだまだ未熟で考えられていなかったということが反省です。子どもたちにとって、これからの長い人生の中においてスポーツ活動あるいは部活動で過ごした時間が、より豊かな人生を過ごすために生きているのか、学びがあったのか、ぜひこの機会を通して、人生を切り拓いていく上で飯田市の子どもたちがスポーツをやってよかった、部活動をやってよかったと思えるような取り組みの方法を示してもらいたいという気持ちでいっぱいです。

今日提案される意見について、忌憚のないご意見をいただき、来年度以降につなげてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

3 報告事項

(1) 飯田市教育振興基本計画、飯田市スポーツ推進計画に基づく今年度の取組状況について

※事務局より説明 → 意見等なし

(2) 飯田市のプール施設について

※事務局より説明 → 意見聴取

(会長)

先ほど事務局からお話があった通り、最近、長野市の公園廃止が大きく問題となったため、地元にて丁寧に説明するという話を聞いて少し安心した。始めるときには問題ないが、閉じる時には賛否あるものなので、地域の方や保育園などが納得していただけるよう、丁寧に慌てずに、できるだけ現場の方と顔を合わせるようにして、納得していただいた上で手続きをしてほしい。老朽化という点では、私が小さい頃からある施設のため理解できるので、先ほどの点について、しっかりとステップを踏んでいただきたい。

(3) 飯田市公共施設予約システムの運用状況について

※事務局より説明 → 意見なし

4 協議事項

(1) 部活動地域移行をみすえた地域のスポーツ振興の考え方

※ ①について 事務局より説明後、意見交換

(会長)

私から確認をさせていただきたい。今まで国から出されていたものと最新のガイドラインを比較して、以前と変わった点としては、事務局の説明にあったとおり、令和5年度から令和7年度が、改革移行期間だったのが改革推進期間に変わった。地域の実情に応じて可能な限り早期の移行を目指すというニュアンスに変わってきている、というのが1点。もう1点は、「連携」「協力」という言葉がたくさんでてくる。今までは、土日の地域移行については地域に任せる形であったが、学校と連携して行う地域クラブ活動という表現に変わってきている。「連携」という言葉がたくさん出てくるようになったのは非常に大きな変化である。その他に変化した点はあるか。この2点が中心か。

(委員)

飯田市スポーツ協会で、全市型スポーツクラブをやっているが、具体的にどのように連携していけばいいのかが、現状だと分からない状況である。

(委員)

昨日、ある講演会を聞いたところ、令和7年度までに地域移行をやるんだというのが、ガイドラインが少しトーンダウンし、「やらなくてもいいのではないか」と思われる内容になっていることが心配

であるとのことであった。また、飯田市が、令和7年度に向けてどのようなスタンスで実施していくかも気になるところである。当面は、中学校部活動と地域クラブが併用という形でやっていくもので、いきなり全てを地域でという形にはならないと思う。いずれにしろ、飯田市としてどうやってこの事業を進めていくかは、考えていかななくてはならない。

(会長)

事務局として、地域移行の期間・進め方について考え方はあるか。

(事務局)

次項でも説明するが、飯田市としては、いつまでに進めるかを決めるのではなく、地域の実情をみながらしっかりと進めていく。一時的に急いで実施してしまうと、問題が出てきてしまうおそれがあるので、時期を決めずに進めていくと、議会でも説明している。長期スパンと短期スパンと両方を見据えて行う必要があり、短期の話では、喫緊で出てきた課題を解決しながら進めていく。

(会長)

先ほどの意見でも出たが、学校との連携を検討する中で、「地域の子どもたちを学校を含めた地域で育てる」という表現がされている。学校は地域の一部であり、子どもたちを全体で育てるという考え方の中で、学校はその一つであるという社会教育的な発想であるが、この点についてはいかがか。

(委員)

この課題について竜東地域で考えていくのか、飯田市全体で考えていくのかによって全然違うのではないかと。竜東地域だけでは、指導者を探すのも難しく、子どもの数も少ないので、成り立っていないのではないかと。飯田市全体で考えるのであれば、子どもたちが選択の幅を持てるのでとてもいいと思うが、その反面、今まで竜東が伝統的に行ってきた部活動の在り方を変えるような方法を取ると、生徒たちに戸惑いが出てしまうと思うので、そこは考えながらやらなければならない。

(会長)

中学校区と全市型とを併用しながら実施できれば、また、地域の伝統的な部分も守りつつ行っていけば、地元でもやりたいし、全市型でもやりたいという子が出てくるのではないかと。

(委員)

地域のとらえについて、飯田下伊那は、面積的には大阪市と同じぐらいだが、人口は大阪市が260万人、飯田下伊那が16万人ほどであり、大きな差がある。

また、この地域は公民館活動が盛んなことで全国的にも有名であり、地域の強い結びつきができていたため、地域を超えて連携することが苦手なのではないか。近隣の公民館と一緒にやりましょうと言っても抵抗感がある。それが飯田下伊那14市町村の特徴である。公民館活動もちろん大事ではあるが、今後は地区の編成の見直しや新しい枠組みの作成も考えていかなければならないのではないかと。

自分は下久堅だが、松尾の方と体育館で交流するというのはあまり考えられない。中学校はいくつかの小学校が集まってできているが、そこには縄張り意識みたいなものがあり、地区間の交流の方法は考えていかなければならないのではないかと。地区外への移動方法、エリア意識みたいなものを取っ払っていかないと厳しいのではないかと。そうすれば新たな公民館活動につながるなどいい面もあるのではないかと。

(会長)

部活動の地域移行の現状報告の中で、様々な心配事や懸念事項が出てきた。続いては、資料5の飯田

市のこれまでの取り組みから見えてきた部分、そしてこれからの方向・考え方・理念という部分について、説明を受けたうえで議論していきたい。

※②について説明後、意見交換

(会長)

課題のとらえ方、今まで飯田市が取り組んできたものの成果や課題について、ご意見ご質問はあるか。部活動の延長の社会体育の廃止というのは本当に大きなことだったと思う。松本市が廃止したと思うが、北信のある学校では、毎日夜 21 時くらいまで部活をやるのが当たり前の状態だった。それでも他の地区よりは時間が早いといわれる状態であった。

県教委のほうから指針が出されてダメと言われても全然改善されない。保護者や先生方のいろいろな思いがあるからなかなか改善できなかった。飯田下伊那としては改善してプラスになるようにしていかななくてははいけない。

(委員)

社会体育廃止ということであるが、聞くところによると、最近では保護者が社会教育団体の申請をしていることが多い。中学校の部活動と同じメンバーで、保護者の名前で社会教育団体として活動をしているようだが、公民館では、登録をされれば活動を断ることはできない。そのため実態を把握する必要がある。

(委員)

なぜ、先生方のように教育者として学んでいる人たちでもそういう状況に陥ってってしまうのか。実際には、子どものウェルビーイングを考えて、楽しさだったり、教育面においてスポーツを通じてアプローチできたはずなのに、学校ができなかったことを地域移行した場合に教育と言われても、今の活動にプラスできるのか心配である。

(委員)

自分子どもたちもそうだが、中体連の南信大会や県に行きたい子どもたちや保護者の願いだけで指導されてきたことが往々にしてあると思う。部活動の意義をふまえた時、先生が教育者としてしっかり生徒に向き合ってきたのか？レギュラーになれない子や後輩の方がうまくて試合で使ってもらえない上級生の子たち一人一人に向き合ってきたのか？地域連携で地域の指導者がそういうことまで意識して指導・クラブ運営ができるのだろうか？

私はこれから小学生、中学生、一般の人が一緒になってやるクラブが増えると思う。その中で大人が子どもと触れ合う、子どもも大人と触れ合う。子どもがそこで何を学ぶのかを考えて地域でやるクラブはよいと思う。部活動の意義を踏まえた指導者が、これからの地域移行の中で大事になると思う。

(委員)

問題なのは、指導者や保護者が子どもたちにやらせすぎることではないか。つつい求めすぎている。それに応えようと子どもたちも頑張るため、やらせすぎになっているのではないかと？

ジブン・チャレンジは自分でやりたいことだからやらされているわけではない。自分が好きなことを 1 日やっていることに対して、それをやりすぎだからやめなさいというのはどうかと思うし、週一回のクラブ活動で、自己練習した子どもが試合で上手いというのは悪い事ではない。

学校であっても地域であっても、子どもたちが自分でチャレンジできることを応援できる、また成長を見守ることのできる大人との出会いが大切ではないか。

(委員)

子どもがどう学んでいくか、いかに自分たちが考えられるのかという主体性を育む指導者の誘い方やビジョンの見せ方が重要である。

子どもは学び方を学ばなければ自分で考えることができないということを思うと、教師であったり、部活動指導員であったり、地域のスポーツ好きなおじさんであっても、子どもたちにとっては良い指導者との出会いというのは非常に大切だと思う。そういう人がいるのかという問題や、休日の報酬の問題がある。すべてボランティアというわけにはいかない。例えば15:00~17:00まで指導できる方がどれだけいるのか？やる気があってもその時間に出来ない人もいる。

これを推進していく上では、これまで教師が中心だった指導者について、今後地域でどのように確保していくのか非常に興味があるところである。

(会長)

今、言われていたような心配や問題点について、「ジブチャレ」は飯田市の形として出していけるものではないか。子ども自身がこういうことをやりたいと意思表示ができるようになってほしい。今までのように、教祖様のような教師に従うような部活動ではなくて、自分の意思をもって、私はこういう所をうまくしたいんだという子や、私はとことんこの競技をやりたいという子どもがいれば、地域に出て専門家に教えてもらうのも良いし、中にはいろんなスポーツを経験したいという思いを持って、自分の意志で活動場所へ行く。そういう時に子どもたちが一歩成長する。自分の意志で動くことが出来るようになるということがジブチャレの成果ではないか。

(委員)

昨年度、中学校でやらせていただいて本当にやってよかったと感じている。先生によってはまだまだ意識が違う。今年は稲垣先生とはつながっていないので、実際トーンダウンをしているのは実態。去年やったので今年度を迎えてみて、稲垣先生の講座を全中学校で一斉に配信しながらやってくれたらありがたいと思った。

一部の中学校だけでなく、一斉にやれたらいいのかな。生徒たちが自分たちで部活動進めていいんだという思いを持てるだけでも違う。そういうのを知らずに指導を受けている生徒はきっと多くいる。そういう取り組みが可能ならやっていただけると毎年やっていくことで意識が高まっていくと思う。

(会長)

3の令和5年度以降の取り組みについてご説明いただいた。今のご意見と重なっても結構ですが、今後の取り組みの方向、目指す姿について何かご意見あるか。

(委員)

飯田市で取り組んでいる全市型競技別スポーツスクールは、いろいろなスポーツを体験できることが良いと思う。スクールでスポーツにチャレンジした人が、中学校を卒業して高校へ進んでも、またいろいろなスポーツに取り組んでくれていることが望ましい。この取り組みは、スポーツが好きな子どもたちを今後も地域で見守っていききたいということだと思うが、令和2年からやっていて実際そういう動きがみられるとよいと思う。私はバレーボールだが、もう少しやりたいという人たちが、いろいろなスポーツに触れるといいと思う。令和2年から取り組んで、現在どうなっているのか聞きたい。

(委員)

私を知る限りでは、その後も何らかの形でスポーツをしている。高校でもやっている。学校を中心にして地域の子どもたちを育てることを飯田市でやる。どうやって育て上げるのかを議論しなくてははいけ

ない。地域で例えばニュースポーツだったら子どもの遊び心を作ってあげるとするのは大事だし、スポーツ協会の加盟団体がそれなりの整合性の中で受け皿を作っている。やりたい子どもたちが、どんな競技をやりたいのかがまだわかっていない。受け皿がどう動くのかも知らされていない。そのスポーツに参加したい子どもの背中を押してあげないと子どもも踏み出せないのではないかと？我々は新しい形で受け皿を作っていかなければならない。そのための連携がないと、やっても活動が分からないということになってしまう。

バスケットボールは比較的色彩んなネットワークで子どもたちを教えるよう取り組んでいる。指導者の質、しっかりとした受け皿、環境など、親御さんが一番心配されている安心した活動にしていく責任を感じている。今の飯田市の取り組んでいる活動は、素晴らしいから私も一緒になってやっている。

しかし、まだまだ理解を得られていないところもある。子どもたちのために何をしたらよいかというのをまず土台を作ることが大事なのではないかと思う。そこから知恵を絞って練習を考えていくということをしていくことが、ジュニア期では必要ではないかと思う。

(会長)

(2) 進めていくうえで大切にしたい考え方と取り組みの方向性の中の②配慮した活動の適正化の継続と保護者や地域指導者への意識啓発、③の生徒の主体性を育む指導者の育成についての発言である。

生徒が主体となる部活動運営ということでジブチャレの変容を大切にしながらとっている。それから、部活動の地域移行の目的や活動の適正化に対する保護者や地域指導者への理解の促進というところの重要性についての発言であった。ここについていかがですか？

(委員)

知り合いに中学校の部活動の外部指導者がいるが、地域移行ということは聞いているが、どのようにしたらよいかかわからないと言っていた。子どもたちは上手になりたいと望んでいるから、部活動以外の日も指導してあげたい、ということが往々にして聞こえる。活動時間で、子どもたちの心身のバランスのための適正な活動時間ということがまだ伝わっていない。保護者も理解していない人がいるので、説明が必要になってくる。

(会長)

理念の啓発が足りない。慌てて理解の深まっていないまま、形だけ作ろうとすると、大事な理念が伝わっていかない。

(委員)

さらに、中学生になったら、活動が制限されるのに、小学生は制限されていないじゃないか、という話が聞こえる。もう少し、その辺から筋道立てて保護者の理解を求めていかないといけない。

そうでないと、小学校で子どもをジュニアクラブに行かせている保護者が中学校に行ったら全然練習できないじゃないかという話も考えられる。

(会長)

今の3 (1) 目指す姿の「ウェルビーイングを感じながら、地域の中で、やりたいスポーツに挑戦できる場づくりを進めていく」というこの大きな柱の方針についてはよろしいですか？本当にいい内容にまとめていただいている。(2) について何かあるか？

(委員)

飯伊ジュニア期のスポーツ活動検討委員会で話に出たのは、「指導者の心得6カ条」が他の地域から評価が高いということ。これは指導者だけでなく、保護者も含めたすべての大人の心得となり、飯田下

伊那で子どもと関わる全ての人はこういう意識を持ってほしい。

日頃小学生を見ていると保護者が9割である。子どもは、保護者の言うことを聞き、コーチの言うことはあまり聞かない。家庭の中で自分の存在、居場所を失ったら生きていけないから親の言うことを聞くしかない。これが中学になると変わってくる。保護者の考え方がとても大事。昔は、プロになるとか、全国大会とかわからずにスポーツに親しんでいた。

例えばドッチボールは今では競技になっていて、大人が勝つためにああすればよいと先回りして筋道をたてて指導してしまう。本来は競技をやって成果を出すことが目的ではなく、豊かな人間性を養ったり子どもの可能性を広げていくことが大事である。良い指導は、指導しないことである。大切なことは伝えるが、自分で考えて子どもがチャレンジしたいことを見守り自立を促すことである。子どもの成長は3年間で成果が見えるものではなく、その子の将来を見すえて力を注ぐべきであると思う。そういう意味で、全市型競技別スポーツスクールの指導者の心得6カ条は、外にもアピールできるいいものだと思う。

(会長)

連携協議会の設置についてお願いします。

事務局より3(3)の説明。

(会長)

いよいよ具体的な検討の場について設定をしていく。目的、内容や組織等々にご質問はありますか？

(委員)

公民館長会の代表としてこの席に来ている。構成メンバーの中に公民館とあるので会議が始まってからきてくれではなく、依頼するのであれば公民館長に館長会の中で説明をしっかりとさせていただきたい。他の館長の中では部活動の地域移行について非常に危惧している人もいる。ぜひ、館長会の中で説明してほしい。

(委員)

構成メンバーの中に小学校を入れたほうが良いのでは？私思うに、地域における中学生の多様なスポーツではなく、地域における「ジュニア期」にして小学生から高校生までのジュニア期の多様なスポーツ活動の場を飯田市が提供していくほうが良いのではないかな。

(会長)

ご意見を参考にしながら検討させていただくという形にさせていただく。
協議のほうは以上にさせていただく。

(委員)

11月の広報いいだの中で、剣道をやっている障がい者がピックアップされていた。学習障害を持った彼が小学校からどう成長してきたのかを広報いいだに取り上げていただいた。これからの部活動地域移行の参考になる内容でした。

4 閉会

(副会長)

寒い中ありがとうございました。感想となるが、地域の子どもたちは学校を含めた地域・PTAの三者で育てるということで公民館は動き出している。下久堅で和紙の活動に参加している小学校4年生が、

地域の中で一緒に活動をする中で、やり方や募集について自分で意見が言える。スポーツに関わらず、地域の中で子どもたちとの関りは必要なことで、その子にとってはいい機会になっている。

小学生の子どもは、自分で考えてうまくいったら楽しい。それが中学に行っても高校に行ってもスポーツをずっとやりたいという根底で根付いてほしい。スポーツ協会の方がおっしゃったように、小学生を含めたジュニア期の中の活動としてこれから考えていけたらよい。以上で、審議会を終了する。